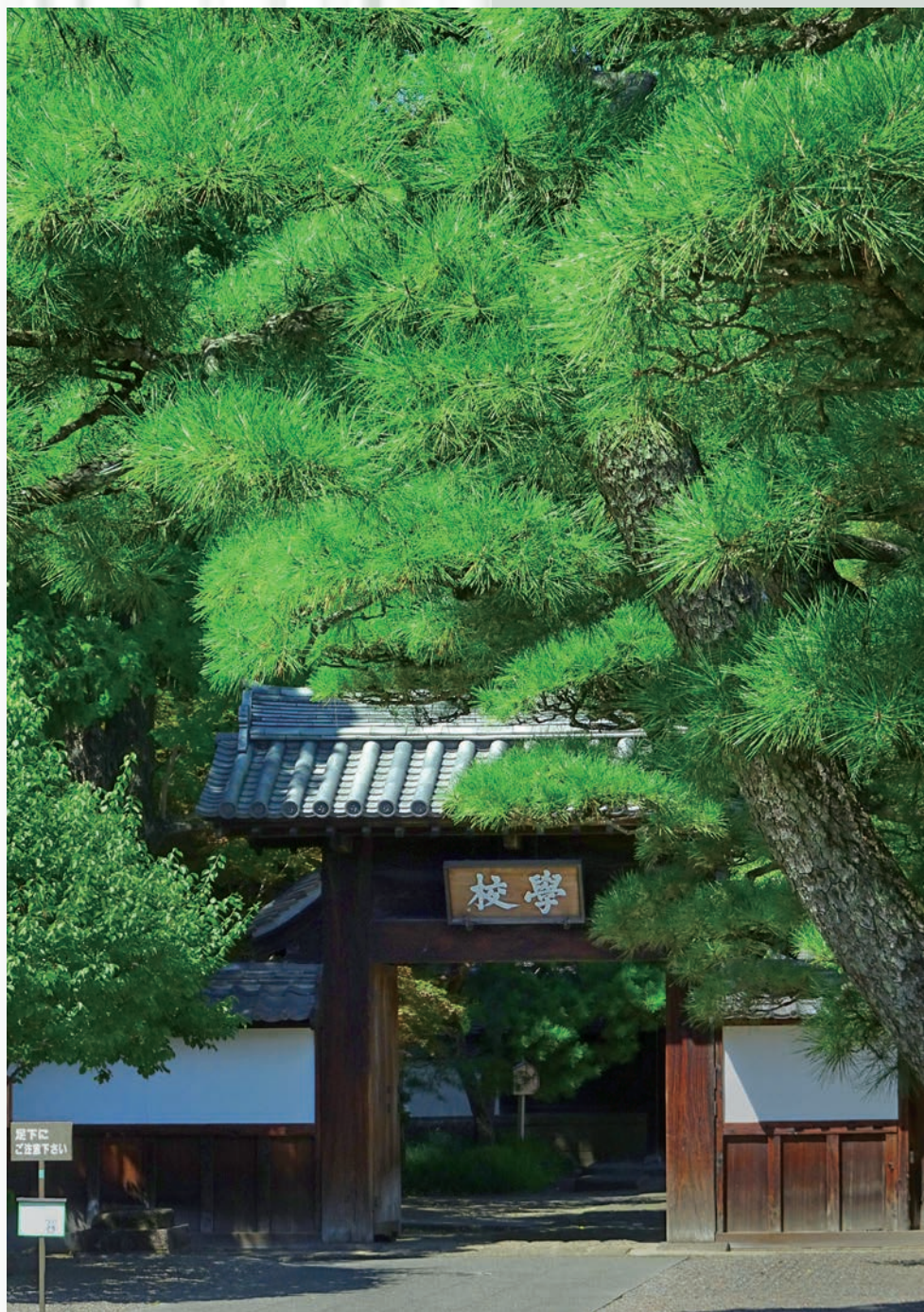


栃木を盛り上げるために頑張る中小企業診断士の情報誌



企業診断とちぎ No.101



2025
8

目 次

○巻頭言

企業診断とちぎ8月号発行に寄せて

一般社団法人栃木県中小企業診断士協会

会長 須田 秀規 …… 1

○政策・施策

令和7（2025）年度重点政策について

栃木県産業労働観光部経営支援課 … 2

○私の研究

ChatGPT活用によるデータ分析

石山 明 … 4

○私のいいね！

机の上の不思議な存在 ～塊根植物のある暮らし～

郡司 和巳 … 6

レトロな世界に身を置いて。～わたしの創造力の源泉～

柴田 幸紀 … 7

○私の書評

審判の指導者となってからの苦悩～「具体と抽象」の重要性～

相樂 亨 … 8

○連載

組織内診断士の歩み:組織に所属する中小企業診断士の強みとは？

～ティフ研×信用保証協会で支援の可能性を広げる～

有島 佑樹雄 … 9

～本業・副業・学びの循環と蓄積～

齊藤 久幸 … 10

○協会の動き

総務・経理部報告（事務局より報告）

田中 義博 … 11

研修委員会報告

山下 典江 … 12

広報委員会報告

黒澤 佳子 … 12

研究会活動報告

江田 彰 … 13

ミニ研究会「経営の仕組み改革」への思い

江田 彰 … 15

関東信越ブロック中小企業診断士有志部会合同研究会特別会合

開催報告

坂上 弘祐・有島 佑樹雄 … 17

○会員紹介

新入会員

石井 邦久 … 19

新入会員

荻原 秀之 … 19

新入会員

金田 修治 … 20

新入会員

小花 勇人 … 20

新入会員

古牧 道之 … 21

新入会員

齊藤 啓一 … 21

新入会員

清水 英昭 … 22

新入会員

下村 博史 … 22

新入会員

富田 百花 … 23

新入会員

服部 実成 … 23

新入会員

野崎 光生 … 24

○インフォメーション

研究会活動予定、行事予定、会員情報、編集後記…………… 25

企業診断とちぎ8月号発行に寄せて

一般社団法人栃木県中小企業診断士協会 会長 須田 秀規



はじめに

平素より、当会活動にご理解・ご協力いただきまして、ありがとうございます。

はじめに、去る5月13日第13回通常総会が開催され、当会名称変更「一般社団法人栃木県中小企業診断士協会」はじめ、その他各議案について、慎重な審議の上ご承認いただきましたこと、ご報告かたがたお礼申し上げます。

なお、安西会員が新たに理事として選任されましたので併せてご報告いたします。

会の運営状況と事業計画

R7/3末時点会員数は、期首108人に対して7名増の115名でした。その後も入会者が増加し、6月4日現在121名となっています。

また、県経営支援課はじめ支援機関からの委託事業も、順調に件数を積み重ねています。

このような状況に鑑み、「県内の支援事業は県内の専門家が担う」「会員の業務従事機会を拡大する」を基本方針に置き、事業内容や実施体制の見直しに着手したところです。

○受託業務の拡大

これまで当会は、受託事業に対して既存受託事業の消化にとどまっていた。しかし、現状の県内支援事業実施状況を見ると、当協会が担うことができる事業は少なく、こちらから働き掛けることで受注につながる事業も少なくありません。それら支援事業に積極的に取り組んでいこうと考えています。

※県の「地域課題解決型創業補助金」創業

プロデュース事業はその一つで、今回初めて応募し採択されました。同補助金受給者の伴走支援を主とする事業ですが、20-25名の会員が参加する機会創出となりました。

☞受託業務の受け皿整備「会員業務支援部」

受託事業の拡大に対応し、適切な人材の派遣と育成、実務従事ポイント取得の機会創出を図るべく、同部を開設し、「経営改善チーム」「事業承継チーム」「補助金申請支援チーム」を置くことにしました。各チームにリーダーとサブリーダーを任命し、幹旋とスキルアップ研修、加えて経験に少ない会員に対するインターン（実習）を行ってまいります。

☞研究会制度の活発化

新規開設が進まない研究会制度について、より少人数でも興味のある分野を掘り下げ、支援人材の枠を広げ、あるいは会員相互の交流を促す目的で、いわば同好会的な意味合いの「ミニ研究会」制度を設けました。AIやカーボンフリー、価格転嫁、人手不足対策、企業内会員の専門分野の活用など、多様な分野での自由なミニ研究会創出を期待しています。

おわりに

総会後の研修会には埼玉県協会の高澤会長をお招きし、大変有益なお話をいただきました。交流会にもご参加いただき、当協会の活気に感心されて、私自身皆さんの熱気に触れ、頼もしく感じました。酷暑の折、会員の皆様にはお身体ご自愛のうえ、ご活躍をお祈りいたします。

令和7年7月5日

令和7（2025）年度重点政策について

栃木県産業労働観光部経営支援課

はじめに

一般社団法人栃木県中小企業診断士協会
会員の皆様には、日頃から県産業施策の推
進にご協力いただき、厚く御礼申し上げます。

経営支援課の主な施策について、御説明
させていただきます。

I 特別相談窓口の設置について

昨年度に引き続き「経営改善専門家派遣
特別相談窓口」を設置しております。

本事業においては、貴会所属の中小企業
診断士の皆様に専門相談員として多大なる
御支援・御協力いただいております、この場を
借りて御礼申し上げます。

本事業は中小企業による経営改善に向け
た取組のサポートを目的として実施して
おります。対象者は「県内に事業所を有し、
経営改善の取組を行おうとする中小・小規
模企業」としており、原則3回まで無料で
（県負担で）専門家から経営改善に関する
アドバイスを受けることができます。

今年度も金融機関や商工会議所、商工会
等と連携を図りながら県内中小企業者を支
援していきますので、会員の皆様におかれ
ましては、何卒ご協力賜りますよう、お願
い申し上げます。

経営支援課金融担当
TEL:028-623-3208



II 令和7年度県制度融資改正のポイント

- (1) **人材確保等促進融資の創設**
- (2) **一般資金（協調支援型）の創設**
- (3) ①**原油・原材料高騰等緊急対策資金**
②**経営力強化借換融資** の継続

(1)人材確保や人材育成、生産性向上の取組
を行う中小企業者を支援するためのメ
ニューです。

例として、賃上げのための人件費や社員
研修の実施、女性や外国人等を含む人材確
保に向けた取組、DXのための資金などに
利用できます。

(2)本資金と同時にプロパー融資を利用し経
営課題解決に取り組む中小企業者向けの
メニューです。

国が保証料の一部を補助します。

※令和7年度は保証料の半額を補助

(3)①**原油・原材料高騰等により売上高や
利益率が減少した中小企業者向けのメ
ニューです。**

原油・原材料の高騰のほか、米国関税措
置の影響のなど、幅広い要因により業績が
悪化している中小企業者が利用できます。
また、コロナ関連の融資を含めた、保証協
会の保証付き県制度融資からの借換が可能
です。

(3)②**新型コロナ関連の県制度融資からの借
換を行いたい中小企業者向けのメニュー
です。**

融資対象は、国の保証制度「経営力強化
保証」を利用し、金融機関等の支援を受け
ながら、自ら事業計画書を策定・実行する
中小企業です。

経営支援課金融担当
TEL:028-623-3181



Ⅲ 栃木県事業承継支援補助金について

本事業は県内の中小企業者の優れた技術を次世代に引き継ぎ、安定した雇用の場を確保することを目的として、中小企業者が行う専門家を活用した事業承継を支援するものです。

○補助対象者

親族内承継、従業員承継、M&Aにより事業承継に取り組もうとする県内の中小企業者（M&Aで県内中小企業者を買収する県外中小企業者も対象）

○対象経費

事業承継に向けた各種手続等を専門家に委託した場合の経費（詳細は県ホームページ参照）

○補助率 対象経費の1/2以内

○補助上限額 50万円

○申請締切

令和7(2025)年11月28日(金)必着
※申請額が予算額上限に達し次第、募集を終了します。

○申請・問い合わせ先

事業承継支援補助金事務局（一般社団法人栃木県商工会議所連合会）
TEL:028-637-3725

詳細につきましては、県のホームページをご覧ください。

中小・小規模企業支援室
TEL:028-623-3174



Ⅳ スタートアップ企業支援事業について

革新的な技術やアイデアによりイノベーションを生みだし、新たな製品やサービスを提供することで急成長を遂げるスタートアップ企業は、地域経済の牽引役になるとともに、若者や女性の雇用の創出効果が期待されることから、県では令和3年度から支援を実施して参りました。

令和5年度には、産官学金からの委員による検討委員会を設置し、「スタートアップ企業支援に関する指針」を策定しました。

当該指針に基づき、大学等が行う起業家マインド醸成に向けた取組への助成や、スタートアップ企業の創出等につながる人材・ネットワークの構築に向けた交流イベントの開催に取り組んでいます。

交流イベントについては、「Tochigi STAR☆to UP Night」と銘打ち、9月18日(木)にライトキューブ宇都宮で、県内のスタートアップ企業等によるプレゼンテーションをはじめ、先輩起業家等によるパネルディスカッション等を行いながら、各支援者や県内企業等との交流を深め、新たなイノベーションが創出されるコミュニティの構築につなげて参ります。

また、スタートアップ企業としての創業を検討している方やスタートアップ企業等、それぞれの成長フェーズ等に沿った専門家による支援事業についても、引き続き実施いたします。

各事業の詳細につきましては、県のホームページおよび経営支援課のFacebookを御覧ください。

商業活性化担当
TEL:028-623-3177
Facebookはこちらから→



ChatGPT 活用によるデータ分析

中小企業診断士 石山 明



はじめに

近年、人工知能（AI）、特に自然言語処理（NLP）の進化により、データ分析分野でもAIの活用が急速に進んでいます。OpenAIが開発したChatGPTは、対話形式での自然言語処理に強みを持ち、テキストベースのデータ分析支援において注目されています。本稿では、ChatGPTによるデータ分析支援の概要、具体的な活用事例、実証検証の結果、およびそこから得られた利点と課題について考察します。

ChatGPTの特徴と分析支援機能

ChatGPTは、大規模言語モデルを基盤とし、自然言語での質問応答、文書生成、コード作成、統計手法の提案などに対応できます。データ分析のプロセスにおいては、以下のような支援が可能です。

- ・ 前処理支援: 欠損値補完や外れ値処理などの作業を自然言語で指示可能。
- ・ 分析提案と説明: 回帰分析やクラスタリング、時系列予測などの手法を提案し、結果の解釈も自然言語で説明可能。
- ・ 可視化とレポート作成: ExcelやPythonコードを生成し、視覚化や報告書作成を支援。

主な活用事例

- ・ ビジネス分析: 売上データや顧客情報を基にトレンド分析や需要予測を実施し、経営判断を支援。
- ・ マーケティング分析: 顧客の購買行動やセグメント情報を活用してマーケティング戦略を構築。
- ・ データ分析: ビジネス以外にも大量なデータを分析して予測を行うことがある。

例えば競馬ではAI予想という手法が開発され有名大学でも研究されている。

実証検証: データ分析

ChatGPTによるデータ分析がどれ程のものか確認すべく実証検証として、2024年6月28日に開催されたJRAの全34レース（新馬戦除く）を対象に、ChatGPTを用いた分析を実施した。各レースの出走馬データをCSV形式でChatGPTにアップロードし、特定条件のもとで将来予測を指示した。実証検証の結果は以下の通りである。

- ・ ChatGPTが最有力と判定した競争馬のうち15頭（48%）が3着以内に入着。
- ・ ChatGPTが推奨する上位5頭が1～3着を占めたレースは5件（16%）。

なお、実証検証はレース結果が確定した後に事後的に行っています。

実際にChatGPTを活用してデータ分析を行った感想は以下の通りです。

活用の利点

- ・ 高速処理: 膨大なデータを短時間で処理でき、特に時間制約のある業務で有効と感じた。
- ・ 平易な解説: 専門知識がない私にも理解できる形で、統計結果や予測の根拠を説明してくれた。
- ・ 作業の自動化: 分析の各工程を自動化することが可能。一度、分析モデルを構築すれば、繰り返しの作業で膨大なデータ分析を行える。人的作業が軽減可能になることを痛感。

課題と留意点

- ・ データ品質の影響: 欠損や誤記があると

分析結果に影響するため、事前のデータ整備が重要。

分析の効率化のためにはやはり人間のデータ内容の理解、知恵が重要。

- ・分析処理の限界:複雑過ぎる分析モデルの場合には人間よりは早いですが、高速処理は難しい。有料版を利用しているても、分析モデル構築までの過程では、指示通りの処理がされない事も多いためストレスになった。
- ・予測精度の限界:当然ではあるが、競馬のように不確定要素がある分野では、あくまで参考情報としての活用に限る必要がある。私の勉強不足もあるが数値の根拠がないものは分析モデルを構築しにくい印象。

結論

ChatGPTは、データ分析において有効な支援ツールであり、特に非専門家でも利用しやすい点が大きな魅力です。今回の実証検証を通じて、データ分析をする上ではChatGPTが必要不可欠になる日は直ぐに訪れると実感しました。

将来的には、税務や監査の分野でも利用できるように、信頼性向上に向けた検証の継続が期待されます。

データ分析の流れ



私のいいね！

机の上の不思議な存在 ～塊根植物のある暮らし～

中小企業診断士 郡司 和巳



■はじめに

今年に入り、近くに住む長男から一鉢の植物をプレゼントされました。丸くふくらんだ茎の先からは、細く尖った葉が幾枚も伸びています。「これは一体…?」と添えられた名札を読むと、「パキポディウム・グラキリス」という見知らぬ名前が書かれていました。そのユニークな姿に惹かれ、その日から大切に育てています。温度や日当たり、風通し、水やりの加減など、細やかな気配りを要し、放っておけない繊細さも魅力のひとつです。



■世界の乾いた大地からやってきた植物たち

塊根植物は、主にアフリカ南部、マダガスカル、アラビア半島、メキシコ北部などの乾燥地帯に生息しています。年間降水量が非常に少ない環境でも生き抜くため、根や茎を太らせて水分を貯える進化を遂げてきました。

この「パキポディウム・グラキリス」や「アデニウム」などは人気の品種で、ユニークで愛らしいフォルムが特徴的であり、見る者の心を和ませます。

■日本で塊根植物が注目され始めたきっかけ

日本でこの植物が話題になり始めたのは、2010年代半ばごろ。SNSで塊根植物の写真がシェアされるようになり、その独特なフォルムが話題となり、“育ててみたい”と一部の愛好家の心を捉えたことから始まりました。インテリア性も高く、リモートワークの広がりとともに、自宅で育て楽しむ植物として注目されるようになりました。

■市場規模はニッチ。でも、熱量が高い

塊根植物は多肉植物市場の中でもニッチな分野に属しますが、ここ数年でコレクター市場が活発化。1鉢数千円のものから、希少種では数万円～数十万円の値がつくこともあります。世界的には「珍奇植物 (rare plants)」としての扱いを受けており、今後も拡大が期待される分野です。

■育てる楽しみ、見守るよろこび

塊根植物の育て方は、「よく乾かしてから水をやる」という基本さえ守れば、あとは陽当たりと風通しの良い場所に置くだけで、とてもシンプルです。しかし、そのシンプルさの中に繊細な一面もあります。

季節によって葉をつけたり落したりと、姿を変えていくのも楽しみのひとつです。

成長は非常にゆっくりで、1年に数センチほど。そのぶん、日々の小さな変化に気づいたときの喜びはひとしおです。

■小さな植物が教えてくれること

日々の生活に追われるなか、庭先の棚に並べた鉢の中でちょこんと佇む塊根植物を見ると、ふと肩の力が抜けます。なにも語らず、急がず、ただそこにいる。その静かな存在感が、不思議と心を落ち着かせてくれるのです。

もし興味を持たれた方がいれば、ぜひ一鉢、迎えてみてください。飾るというより「ともに過ごす」ような感覚で、日々ちょっとした潤いと癒しを与えてくれる存在になるはずです。

私のいいね！

レトロな世界に身を置いて。 ～わたしの創造力の源泉～

中小企業診断士 柴田 幸紀



AIとの出会いで、創作熱が再燃

ChatGPTが登場してからというもの、画像・動画生成、ウェブサイト制作、アプリ開発など、さまざまなAIサービスが一気に広がりました。

私も2023年1月からChatGPTを使い始め、今では動画や画像、プログラミング系のAIも併用しており、多い月はAI関連のサブスクだけで2万円を超えるほどです。

もともと私は、子どものころから「つくること」が大好きでした。

レゴブロックから始まり、段ボールやお菓子の箱などを使って、テレビやビデオデッキ、はたまた自動販売機など、日常のものを再現して遊んでいた記憶があります。

そんな“ものづくり少年”だった私が、今このAI時代に出会ったわけですから、創作意欲に火がつかないはずがありません。

仕事の合間をぬって、動画やウェブアプリなどを「ガシガシ」つくっている毎日です。

AI時代に求められる能力

AIを使って創作するには、次の2つの能力が大切だと感じています。

ひとつは「ジャッジメント力」。最近の大規模言語モデルは非常に優秀で、プロンプトの工夫がなくても、自然に対話するだけで高品質な出力をしてくれます。だからこそ「どの結果を選ぶか？」という判断力が重要だと思っています。

もうひとつは「クリエイティブな発想力」。AIはあくまでツールです。「そもそも何を作るのか？」という出発点に対して、自分なりの視点やオリジナリティが欠かせないと感じています。

発想の源泉は“昔の自分”

その発想力を呼び起こすために、私が頼っているのが「昔の自分」です。

小学生のころの私は、今の自分よりずっと自由で、創造力にあふれていたように思います。

そこで私は、当時の自分に“会いに行く”ための環境をつくることにしました。

そうして完成したのが、「80年代後半の世界観」を再現した部屋です。ブラウン管テレビ、ラジカセ、ファミコン、当時のマンガや玩具など、少年時代の自分がテンションMAXになるようなレトロ空間を事務所の一角に整備しました。



昭和レトロを再現したクリエイティブルーム

その部屋で作業をするようになってからというもの、個別支援や需要動向調査の提案における「ひらめき」や「切れ味」が明らかに増したと感じています。

これまで診断士としてデータ化・効率化（デジタル化）を重視してきた私ですが、あらためて“物理的（アナログ）なモノ”が持つ力、手触りや雰囲気を与える影響力に気づかされました。ただし、副作用もあります。この部屋で作業していると、創造性と引き換えに「恐ろしいほどのおっちょこちょい」な昔の自分も召喚されてしまう、という点です（爆）。

審判の指導者となってからの苦悩 ～「具体と抽象」の重要性～

中小企業診断士 相楽 亨



「13歳から鍛える 具体と抽象」

著者:細谷 功

発行:東洋経済新報社



後輩指導に重要な「具体と抽象」

現役の審判を引退してはや5年。最近は後輩の審判員に指導をする週末です。

実際に指導の現場に行ってみると、指導者は口をそろえて「現役は指導しても理解してない。」と憤慨し、現役審判員は「指導が分かりにくい。」と嘆いています。どうやら話の階層がずれているようです。

私は現役中に診断士に出会ったおかげで、おぼろげながら「具体と抽象」がイメージできていたので、指導者のアドバイスを具体化したり抽象化したりして上手く呑み込んでいましたが、それを知らない指導者と現役が無駄に対立しています。

これは良くないと「具体と抽象」についてプレゼンを作っていた時に出会った本がこれです。

13歳でも読めるため、とにかく読みやすい。

この手のビジネス本は通常大人向けで、専門用語にあふれてしまう傾向が強いため、私も途中で挫折することが多いのですが、この本は違います。子供でも読めるよ

うに図が多く、ビジュアル重視のポップなページになっていますので、とにかく読みやすい。スラスラ読めて、最後まで読み切れるようになっています。

本の構成

第1章「具体と抽象ってなんだろう」

第2章「具体と抽象で頭を鍛えよう」

第3章「具体と抽象を勉強でどう活かす？」

第4章「具体と抽象をコミュニケーションでどう活かす？」

第5章「具体と抽象の使用上の注意点」

人間だけができる具体化と抽象化

著者は、人間だけがこの具体化・抽象化をすることができ、また人間の中でもこれを操ることができるか否かで人生が豊かになるかどうかを左右する、と論じています。だからこそ13歳から鍛えるべきだとしています。

中小企業診断士の皆様にオススメできます。

この本をもってしても、一般の人が「具体と抽象」を操るのはやはり難しいと感じます。しかし、抽象、いや中小企業診断士の皆さんであれば、この本の内容がすんなりと理解でき、著者の狙い通りに人生が豊かになること間違いなしです。審判の指導にも活用していきます。

相楽 亨（さがら とおる）

FIFA（2007～2018）

税理士（東京税理士会）

辻・本郷税理士法人（上場・ファンドG）

勤務

組織内診断士の歩み:組織に所属する中小企業診断士の強みとは? ～ティフ研×信用保証協会で支援の可能性を広げる～

会員 有島 佑樹雄(栃木県信用保証協会 勤務)

本業での取り組み

本業では、栃木県信用保証協会に勤務しています。信用保証協会は、中小企業・小規模事業者が、金融機関から事業資金の融資を受ける際、公的な保証人となることで、融資を受けやすくすることを目的とした組織です。主な業務は、事業者の資金繰りを支援する金融支援と、経営課題の解決を中心とする経営支援となります。

事業者支援を行う中で、中小企業診断士に求められる役割と信用保証協会業務は親和性が高いと感じます。士会等の外部機関との連携や、事業者の課題解決に向けたプロセス構築は、まさに企業内診断士に必要とされる能力といえます。

士会およびティフ研入会をきっかけに、診断士としての意識が高まったと感じています。

副業・兼業での取り組み

基本的に、ティフ研活動を通じて紹介される士会からの委託案件に関わらせていただいています。

去年は商工会からの依頼で、県内理容室の需要動向調査を行いました。アンケート結果や外部環境調査を踏まえたうえで、分析結果と改善提案をレポートとしてまとめました。

1月には、新年研修会の講師を担当させていただきました。「事業者支援に求められる役割」として、信用保証協会の経営支援の取り組みや、これまで企業内診断士として携わった支援事例を紹介しました。本業と士会活動の経験が融合された貴重な機会となりました。

トライアンドエラーを繰り返しながら、知識や経験を言語化し、アウトプットを提供することは、診断士としての自分の能力を高め

る機会となっています。

委員会・研究会での取り組み

毎月第三土曜日開催のオンラインサロンでは、講師として登壇し、スタートアップ支援やコロナ借換保証後の取り組みについて紹介しました。その際、参加者からの質問や意見は新たな気づきとなっています。なお、オンラインサロンや四半期に一回行われる定例会では、独立診断士や企業内診断士、経営者の方々の話を聞くことができるため、積極的に参加するよう心掛けています。

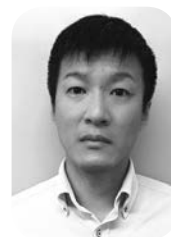
また、2月と5月に開催された北関東信越ブロック中小企業診断士フレッシュズフォーラムでは、微力ながらティフ研幹事として運営にも携わらせていただきました。運営側である一方、他県の独立・企業内診断士の方々とも有意義な意見交換をさせていただきました。

おわりに

ティフ研に入会して2年ほど経過しましたが、調査事業や講師経験、様々なバックボーンをもつ方々との交流は、本業では得られない経験となっています。また、外部活動を通じた新たな知見習得は、本業でのスキルアップに必要不可欠だと感じています。

ティフ研は地域の活性化を目的として活動を強化しています。ご興味のある方は、是非ティフ研への参加を検討してください。

有島 佑樹雄
中小企業診断士
栃木県信用保証協会
保証部 保証二課



組織内診断士の歩み:組織に所属する中小企業診断士の強みとは? ～本業・副業・学びの循環と蓄積～

企業内診断士研究会（ティフ研）所属 齊藤 久幸

本業での取り組み

地方銀行に勤務し、20年弱法人営業を担当しています。地場の中小企業から地域を牽引する中堅・上場企業まで、多種多様な業種、業態の企業に関与させていただきました。

地場企業の経営環境は厳しく、その様な環境下で経営者はいずれも大きな責任を負い、最終的には孤独であることがよく理解されます。

診断士の視点で企業を多角的・有機的に捉え、リアルな対話に努めています。その結果、経営者の琴線に触れ、本音を共有し、前向きな未来を一緒に考えられた時は大変な喜びです。

足下の当業界では、早期の再生支援関与・取組の重要性が高まっています。難しい局面の企業は頑なであることが多いですが、診断士としての知見・能力を活用することで事態が進展することが多く、手応えを感じています。同時により研鑽に努める必要性も感じています。

副業・兼業での取り組み

昨年11月、ティフ研への参加を機に、宇都宮市立東図書館にて「ITパスポート」に纏わるセミナー講師を務めさせていただきました。

当日は、20代から70代までの幅広い年齢層の市民の方々約20名にご参加いただきました。初学者向けのセミナーということもあり、「いかに分かりやすく伝え、理解を深めていただき、行動へと繋げられるか」を念頭に準備しました。

反響の中には資格取得に向けて取組をしたいとする感想もあり、準備に時間を掛けた甲斐があったと思っています。

9月には「生成AI」をテーマにセミナーを開催します。日進月歩のテーマですが、内容の充実と臨場感を大切にして、ご来場くださ

る方への価値提供に努めたいと思います。

地域社会活性化に向けた貢献には様々な形があると思っています。引続き地域や社会が賑わうための貢献に微力を尽くしたいと思います。

委員会・研究会での取り組み

ティフ研のサロン講師では、DDSを活用した企業再生支援取組の事例を紹介しました。身近な企業を事例としつつ、知識や技術ではなく、診断士として自身が関与する場合に、どの様に問題を捉えて、行動・改善を促していくかを共有させていただきました。

オンラインサロンや例会では、様々な専門分野を持つ方が、ご自身の経験や知見を惜しみなく共有してくれます。

ティフ研は『活きた知識を得られる場』です。このような機会を得られることは大変貴重なことだと思っています。

私自身も参加を通じて様々なバックグラウンドを持つ方々から活きた知識を得ています。それらを自身に蓄積しつつ、診断士として企業をはじめ地域へ還元していきたいと考えています。

おわりに

本業での実践、副業での多彩な経験、ティフ研での活きた学び、これらを循環的に経験し蓄積できることが組織内診断士の強みです。この循環を通じて得たことを地場企業・地域・社会へ継続して還元していきたいと考えています。引続きご指導ご鞭撻をよろしくお願い致します。

齊藤 久幸(さいとう ひさゆき)
中小企業診断士
企業内診断士研究会
(ティフ研) 所属
地方銀行勤務



事務局より報告

事務局長 田中 義博

会員の異動

新年度に入って新たに6名が入会し、現在121名となりました。

そのうち、B区分の会員は20名です。

会の名称変更に係る諸手続

5月23日の総会決議により「一般社団法人栃木県中小企業診断士協会」に名称を変更しました。変更登記、契約先等との間での変更手続、銀行口座の名義変更、認定支援機関の登録変更等の手続を無事終了しました。

主な委託事業等の進捗状況

- 1) 県経営相談窓口
7社実施中（予算44社）。
滑り出しで例年より少ない状況なので、事業者や金融機関の皆様へ働きかけ、積極的に活用をお願い致します。
- 2) 県経営革新計画フォローアップアドバイザー専門家派遣
現在、事業者選定中です（予算9社）。
- 3) 保証協会経営安定化支援事業
年度内に新規着手した支援先は22社で、概ね昨年並みのペースで遂行しています。
- 4) 県中小企業活性化協議会（県協会実施分）
今年度、新規着手3件、モニタリング継続中も含めて19社実施しています。
- 5) 宇都宮市空き店舗補助金に係る経営診断実施2社の状況です。
- 6) 宇都宮市アグリネットワークアドバイザー業務
例年同様、継続実施しています。
- 7) 宇都宮市障がい者工賃ステップアップ事業
例年同様、3事業者を支援しています。

（公財）栃木県産業振興センターより、創業プロデュース事業を新規受託

「栃木県地域課題解決型創業支援補助金」の支給対象者に対する、事業の立ち上げや地域での事業継続に係る伴走支援等を行う事業です。

県協会では今期、初めて受託しました。

まずは、6月末に採択決定された第1次採択の15事業者への支援からスタートします。引き続き、過年度採択者や、9月上旬に決定される第2次採択者への伴走支援を行います。

事業運営担当者として3名、支援業務担当者として会員21名の体制で支援業務に当たります。

診断士賠償責任保険（都道府県協会一括加入方式）の加入状況

23名の会員から申込があり、一括方式での加入受付は終了しました。

登録更新手続

4月以降、17名の会員の更新があり、うち15名について申請書類を県協会事務局で事前受付し、中小企業庁への提出、連合会への報告に対応しました。

会員情報検索システムのご案内

現在42名の登録状況です。

新入会員が増えたこともあり、6名の新規登録がありました。未登録の方は、積極的にご活用下さい。

会費の納付状況

未納付会員25名（7月4日現在）。まだの方は、お早めに納付をお願い致します。

研修委員会報告

研修委員会委員長 山下 典江

本年度研修委員会 活動について

本年度研修委員会の活動テーマは以下の通りです。

1. 理論政策更新:研修:

9月20日(土) ホテルマイステイズ宇都宮
<テーマ>

- ①「新しい中小企業政策について」
栃木県産業労働観光部経営支援課長
梁木 三恵子氏
- ②「事業承継により引き継ぐもの
ー企業の未来を考えるー」
アットハーモニーマネジメントオフィス
代表 黒澤 佳子氏
- ③「廃業の意思決定こそ究極の経営戦略で
ある」

(有)情報ビジネスコンサルティング

代表取締役 矢口 季男氏

2. 自主研修:5月23日(金) 実施済み

自主研修を総会日程に合わせて以下の通り開催しました。

「埼玉県中小企業診断協会の
価格転嫁対策支援とその他
の支援事例」

講師:高澤 彰氏(一般社
団法人埼玉県中小企業診断
協会会長、(有)タカザワ企画代
表取締役、中小企業診断士)



3. 視察研修開催:検討中

4. 新年研修開催:検討中

1月17日(土)

広報委員会報告

広報委員会委員長 黒澤 佳子

本年度広報委員会活動について

本年度広報委員会の活動テーマを以下の通り推進します。

1. 会報「企業診断とちぎ」の発行

本年度も8月、12月、3月と3回の発行を
予定しています。また次のように内容の充実
を図り、親しまれる会報を目指します。

- 1) 適時テーマ記事の掲載
- 2) 診断士の活動、経営に役立つ記事など掲載
- 3) 変化する事業環境で活躍する診断事例の
掲載
- 4) 幅広い会員の多様な活動記事などの掲載
- 5) 会報による広報活動を進化させるための
検討

2. その他広報推進事業

会報誌読者の方々の意見を取り入れた状況
提供を増やし、協会会員の方々の情報共有
を増やしていく活動を行います。その中で、
会報誌媒体としてWeb化するのか、紙媒体
を継続するのか、会報誌の将来も検討してま
いります。

会員の皆様、いつも寄稿くださりありがと
うございます。会報は皆様のご協力の上で成
り立っています。執筆依頼させていただきま
した際には、ぜひお引受けいただけますと幸
いです。何卒ご協力の程お願い申し上げます。

研究会活動報告 (令和7年度活動計画について)

研究会担当理事 江田 彰

令和7年度も前年度からの活動を継続、中小企業が抱える様々な課題解決のための診断・支援技術の習得及びレベル向上を目指した研究会活動を計画しています。事業承継研究会と企業再生研究会は、支援チームへの組織改編に伴いそのチーム内での勉強会を開催します。

代わりに新たな研究会として執筆研究会と経営の仕組み改革（ミニ）研究会が発足しました。以下、3つの研究会と1つのミニ研究会の活動計画をご紹介します。

[DX研究会]

<代表者・メンバー> 石田栄、15名
<問い合わせ> spne9659@athena.ocn.ne.jp
<開催頻度> 計画11回（内実施済2回）
<開催日時> 毎月1回 金曜日午後13:00～
<主な研究活動>

R7年度はR6年度からの継続活動①②とR7年度に開始する活動③④⑤を進める。

①「デジタル化支援勉強会」の継続活動

「キントーン勉強会」を「デジタル化支援勉強会」に改名。中小企業のデジタル化支援の原点に立ち返り、ゴール（目標）の定義、支援範囲の内容など、実効性のある支援モデルの構築を目指す。

②「加速度センサー勉強会」の継続活動

生産設備の異音や振動等の日常定期管理及び品質管理の一助とするため、栃木県産業技術センターの技術支援受け、中小企業に役立つアプリを提案する。

③「ラズベリーパイ勉強会」スタート。

AI機器（特にセンサー関係）についてはプログラムの自動起動や取得データの格納等について「ラズベリーパイ」とのコラボが必然となり、学習/実技の両面から技術習得を推し進めていく。

④「AI勉強会」をスタート。

中小企業の経営を円滑化するためAI使用して的確にスピード感のあるアドバイスや支援を対象企業に実施することで経営力アップの一助にする。

⑤「ロボット勉強会」をスタート。

加工機や三次元測定機へのワーク着脱にロボットハンドやプログラム作成等を実機で学び、省力化のノウハウにつなげる。

<まとめ>

経営・業務課題を整理するためのフレームワーク、チェックリストの整備、IT情報の整備等は必然で、会員が実技面で情報収集や理解を深め次元の高い整備に繋がり、各種アプリ等を利用したDX化への解決策・実行計画の策定・対象企業にマッチした導入ツール、機器の提案から「IT補助金」申請等を進められることである。

[企業内診断士研究会（通称:ティフ研）]

<代表者・メンバー> 松本誠謙、26名
<会合回数> 計画17回（実施済4回）
<主な研究活動>

地域の組織内中小企業診断士と関係者の皆様の活性化を目的とした活動を実施中です。

①組織内中小企業診断士が活躍できる

地域の業務および活動の研究

②副業および兼業の働き方を考える研究

③実務従事活動の探求と実践の研究

④他地域の組織内中小企業診断士

および関連団体の事例研究

⑤独立して活躍する地域診断士

および地域有識者事例研究

⑥診断士志望者および関係者の学習知見

および応援する研究

本研究会は、対面の「年4回の定例研究会」、「毎月第3土曜のオンラインサロン」、「年

数回のイベント事業」で構成されています。

直近6月の定例会では、埼玉県中小企業診断協会の亀井誓子先生をお招きしてご講演をいただきました。SNSでも有名な方で、若手ながら幅広く活躍されており、特に独立を志望している会員から非常に好評な会となりました。

オンラインサロンでは、ブログに上げた内容をトークテーマに、内容解説とフリーディスカッションをしています。他県からの参加者も多く、交流の輪を広げる機会にもなっています。

直近5月には、毎年恒例となった北関東信越ブロック合同フレッシューズフォーラムを開催し、多数の参加者が集まり、活発な質疑応答や議論が展開されました。

連絡先:tifcorm_leader@googlegroups.com

Webサイト:<https://note.com/tifcow>

[執筆研究会]

<代表者・メンバー> 勝沼孝弘、(5) 名

<開催頻度> 年4回程度

<開催場所> 士会ZOOM

<開催日時> 第2水曜日 19:00～20:30

<主な目的>

株式会社ぎょうせいが発刊している「月間税理」モデル利益計画4か月分の執筆、機関紙「診断とちぎ」への寄稿を実施する。

また、様々な機会において中小企業診断士として保有しているスキル、経験、ノウハウの情報発信を行っていくことで、更なる支援技術のスキル向上を図ると共に会員自身及び当士協会のプロモーションにも繋げる。

<主な研究活動>

- ・「モデル利益計画」(執筆内容)に求められる内容及びレベルの把握とそれを実現するための基礎知識及び技術の習得
- ・執筆原稿のグループ内添削によるブラッシュアップ
- ・中小企業診断士としての品質保証(要求レベルを満足すること)

<特記事項>

月間税理執筆者は執筆研究会に所属すること

→執筆年度末に研究会退会可

→原稿料は別途協会から支払われる(診断とちぎ等は無償)

月間税理「利益計画」は、事前準備～添削～完成には約4か月が必要です。

<今後について>

1回目:モデル利益計画のシナリオ構成について

2～4回目 各執筆者の添削及びブラッシュアップ

(編集長及び添削責任者との打ち合わせ)

[経営の仕組み改革_ミニ研究会]

<代表者・メンバー> 江田彰、13名

<会合回数> 計画5回(2ヶ月に1回)

<開催日時> 奇数月第2木曜日

19:00～20:30

<開催場所> ZOOM(基本)

<活動期間> 1年間(令和7年度のみ)

<研究会の目的>

世界一流の「経営の仕組み」及びその成功事例の調査・研究を行い、中小企業でも活用できる有効な「仕組み」を開発、それらを企業に提案、企業の経営改革・改善を支援する。

<主な研究活動>

- (1)世界的企業であるコマツとカミンズ社の「経営の仕組み」を理解する
- (2)最新ISOの意図である“モノの品質から経営の品質”への展開及び欠点(形式化・形骸化)の克服方法を学ぶ
- (3)会員のコンサル実績・経験からその成功事例・失敗事例を学ぶ
- (4)以上から成功の秘訣(手法・プロセス・ノウハウ)を習得し、中小企業でも活用できるシンプルかつ有効な仕組みを開発する。
- (5)「研究会活動のまとめ」としてそれらを支援先である中小企業者に提案する。

<参加申込み>

代表者(江田)までE-mail(下記)でお申し込み下さい。akiraedal204@kzf.biglobe.ne.jp

皆様のご参加をお待ちしております。

以上、4つの研究会の活動計画を紹介しました。なお、参加者募集は常時行っています。各研究会の代表者又は連絡先までお問い合わせ下さい。

ミニ研究会 「経営の仕組み改革」への思い

中小企業診断士／ISO 主任審査員 江田 彰

“人には何かしらの役割がある”はよく聞く言葉です。前職を定年退職、2012年に当士会に入会、その活動も13年目を迎える中でこれからどのようにランディングさせるべきか思いを巡らせていた矢先のミニ研究会の提案。そうだこれかも知れないとひらめき、その場合のテーマは何にすべきかを考えたとき、真っ先に浮かんできたものが“人”でした。

日本の時間当り労働生産性（2023）はOECD加盟38ヶ国中29位（日本生産本部）と低いことは知られた事実です。ISO 審査で13年間、全国126組織（ほとんど中小企業）の経営者と面談、必ず出てくる話は人手不足問題、そして採用の難しさ、一方で現人員を活用し「仕事のやり方」を見直すことで生産性を向上させようとする経営者は、ほんの一握り。労働人口が減り続ける日本においてその対応は待ったなし。現人員の育成・定着をどのように図るかの支援が急務であるとの思いは日に日に強くなってきています。

もうひとつの側面があります。診断士として経験させて頂いた「経営改善計画策支援」の中で計画通りに立ち直った案件とそうでなかった案件の違いは一体どこにあるのか。もちろん外部環境が大きく影響することは当然ですがそれ以外の要件、例えば内部環境（経営の仕組み）の問題はなかったかという見方をしてみると真実が少し見えてきました。ここでの「経営の仕組み」は、経営者の意思（理念）・リーダーシップ、顧客との信頼関係、組織、コミュニケーション、人材活用、事実の把握・解析、改善（PDCA）などです。そしてこの「経営の仕組み」の良し悪しが出てくる場面はア

クションプラン策定であり、積み上げた数値（売上・原価）計画をどのように達成するかを掘り下げるときの必須要件になります。

私事で恐縮ですが担当させて頂いた案件については、数値計画の作成に加え、それをどう実現するか、いわゆるアクションプランの策定（実施事項・内容、目標設定、日程計画等5W1Hの明確化）に注力、支援企業と一緒に考え、実践していただくことに全力で取り組んできました。そしてプラン通りの成果が得られ、経営者や支援機関からの評価を頂いたときは診断士冥利に尽きる思いがした記憶があります。

「経営の仕組み」が企業の永続的発展のベースになるとすればどのような「仕組み」が良いか、どのような「仕組み」を目指すべきかを研究することは意義のあることではないかとの思いに至りました。そして、その場合の方法はやはり事例研究になるのではと思っています。経験豊富なメンバーの先生方の貴重な体験や成功事例を共有させて頂ければ、それらを更に掘り下げ調査・研究することで中小企業でも活用できる有効な「経営の仕組み」が開発できるのではないかと。その活動を通して診断士としての支援技術・スキルの向上を図る。そしてゴールはそれらを支援先である中小企業者に提案することで経営改革・改善を促進する。との研究会としての道筋が見えてきました。

まず、隗より始めよ。に従えば、小生にとっての事例は前職であるコマツとカミンズでの実務経験抜きには語れません。

コマツは世界第2位の建設機械メーカ、直近で連結売上高4兆円（90%海外）、従業員数66千人（70%外国籍）のグローバル企業、退職当時（13年前）は2兆円、47千

人で売上は倍増と特に近年の成長は著しいものがあります。

一方、設立104年の歴史の中では、1961年米国キャピラー社日本上陸での存亡の危機、2001年度初の赤字計上からのV字回復など経営トップの英断と戦略で乗り越えてきた事実があります。それを可能にした「経営の仕組み」とは何であったか、一言でいえば「TQM（総合的品質管理）」と「ダントツ経営」。前者は、トップダウンとボトムアップ（現場力）、QC的問題解決（ファクトファインディングとPDCA）。後者のベースは経営トップが若手社員の声を聴く柔軟性にあると見ています。

業績低迷からの脱出を目的にした“小松の21世紀ビジョン論文”募集では、“活力ある企業になるための8つの提案”を提言し、佳作受賞（小生36歳）。それが契機となり3年後「90年代委員会」（コマツを実際に改革する活動）のメンバー（全社10名）に選出され、当時の経営企画室長（A専務、後の社長）の下、社名呼称変更（小松製作所⇒コマツ）、ユニフォーム変更（山本寛斎デザイン）等の改革案を実施。トップのリードと若手のアイデアで会社は変革できることを体験しました。中小企業診断士取得（29歳）もコマツでの学び・体験が切っ掛けです。

続いてカミンズ（大型ディーゼルエンジン世界No.1企業）です。排気ガス規制・円高対応でコマツが主力の建機用エンジンをカミンズ社製に切り換え、その生産拠点を日本JV（本社機能を持つ）として小山工場内に設置。そこでのグローバルサプライチェーン構築&オペレーション（米国・欧州・ブラジル・インド・中国等計約170社のサプライヤーからエンジン用部品を調達）を担当したのが後半の20年（42～61歳）。いきなり英語だけの世界に、海外出張は100回超、ワールドワイドビジネスマンとしての心得、プレゼンテーション力、Yes／Noを明確に、会議は少人数・短時間、議事録はその場で仕上げ、双方で合意サイン等特に間接業務の生産性の高さは衝撃でした。

特にインドサプライヤー開拓の先駆者

（A氏）、中国サプライヤー開拓・拡大をリードした（B氏）の仕事ぶりは驚きそのもので自身にとっての大きな目標になりました。

両社での経験から、“出番（役割）をつくることで人は育つ”を筆頭項目とする「人づくり10項目」をまとめたのもこの時期でした。

そして、診断士・ISO審査員としての13年、歴代の会長（矢口先生・仲山先生・須田先生）、先輩の先生方、先輩審査員、関係機関の皆様の導きにより今日まで仕事を続けてられました。感謝以外の言葉はありません。

主に担当させていただきました経営改善計画策定支援では、採算分析から価格改定を成功させたH社・K社の事例、台風水害による設備全損から見事に復興したO社の事例があります。それぞれ、社長のリーダーシップ、事実（データ）に基づく意思決定、強み（顧客との信頼関係・高品質）を活かした戦略など「経営の仕組み」が功を奏した事例です。

本ミニ研究会の参加者は13名（7/5時点）を数えており望外の喜びを感じております。

メンバーの先生方はいずれも経験豊富です。様々な事例を紹介していただけるのではと今から楽しみにしております。

研究会の内容は、一斉配信メールで案内した通りですが本誌の研究会活動にも要約版を掲載しましたのでご参照願います。

皆様のご参加をお待ちしております。

[プロフィール]

2012年10月、E&Aコンサルティング設立。

「支援分野」事業DD、経営改善計画策定、TQM構築、現場改善、人材育成、リーダー教育、ISO9001認証取得

「趣味」旅行・映画鑑賞・野菜づくり



北関東信越ブロック中小企業診断士 有志部会合同研究会特別会合 開催報告

中小企業診断士・技術士（情報工学） 坂上 弘祐
中小企業診断士 有島 佑樹雄

日診連後援年次フォーラムの特別会合実施

日本中小企業診断士協会連合会ならびに北関東信越ブロック各県協会後援イベント「北関東信越ブロック中小企業診断士フレッシューズフォーラム」（年次フォーラム）の事務局会合を、対面形式（東京会場）で特別会合として令和7年2月15日（土）に開催しました。

当日は、5県（栃木県、群馬県、茨城県、長野県、新潟県）の有志部会合同研究会メンバーや、その他オブザーバーら幹事・幹部級の青年診断士や企業内組織内診断士約20人の参加があり、活発な情報交換や交流が行われました。



北関東信越ブロック診断士有志部会合同研究会特別会合
～年次フォーラム2025事務局会合in東京～
栃木県中小企業診断士会・群馬県中小企業診断士会・茨城県中小企業診断士会・長野県中小企業診断士会・新潟県中小企業診断士会
2025年2月

【有志部会】

- ・ 栃木県中小企業診断士協会ティフ研
- ・ 群馬県企業内診断士活躍研究会
- ・ 茨城県企業内診断士の会
- ・ 長野県中小企業診断協会青年部
- ・ 新潟県中小企業診断協会青年部会

【当日スケジュール】

1. 開会&挨拶
2. 各県有志部会関係者情報交換会
3. 簡易懇親会
4. ティフ研主催サロン第50回記念特別回
5. 地域連盟構想ワークショップ

各県有志部会関係者情報交換会

まず、北関東信越ブロック5県で2023年から開催してきた年次フォーラム実績を踏まえ、2025年の年次フォーラムを継続的かつ発展的に開催していく重点企画を確認しました。

次に、上記企画にとどまらず有志部会の情報交換のため、各県有志部会の特徴的な取り組み・課題・今後について発表が行われました。

各県とも勉強会や懇親会を主に活動していますが、参加者や運営メンバーの不足を課題としてあげていました。今後実施したいことは、事業者支援や他組織連携活動がありました。

【情報交換会】



【簡易懇親会】



サロン第50回記念特別回:奥村組様特別講演&ティフ研自主研究報告

今回の特別会合をご支援頂いた(株)奥村組様より、自社の事業内容として、インフラ事業やエネルギー・電力事業における取り組みを中心に紹介いただきました。地方創生やSDGsへの取り組みを学ぶ貴重な機会となりました。

ティフ研自主研究報告では、栃木県協会と各県協会との取り組みを比較し、ティフ研の活性化案を提案しました。研究会・研修の充実、プロコン塾・実務従事の充実、プロボノ活動・調査研究事業の充実、青年部発足、診断士試験受験サポートを課題としてあげました。

同サロンはリアルオンライン併催で行い、オンライン参加も含め30名超が参加しました。リアル会場とオンライン会場を繋ぎ活発な議論や交流が行われました。

【奥村組様特別講演】



【ティフ研自主研究報告資料】



地域連盟構想ワークショップ

リアル会場で5グループに分かれて、合同研修セミナー、合同調査リサーチ、合同実務従事コンサルに関する意見交換を実施しました。

合同研修セミナーでは、他県で実施するオンライン研修やセミナーへの参加を柔軟に対応する等の意見がありました。

合同調査および合同実務従事コンサルでは、調査規模が大きい事業や県を跨ぐ事業において、各県が連携して取り組む機会を設ける等の意見がありました。

【特別会合を終えて記念撮影】



まとめ

本特別会合は、初の対面形式で実施されたことにより終始白熱した意見交換や得難い交流が行われ、満足度の高いイベントとなりました。

ティフ研では引き続き、中小企業診断士が自己研磨およびネットワークの構築を図る場を提供し、栃木県協会のプレゼンスを高める活動をしていきますので、今後ともご支援・ご参加をよろしくお願いします。

坂上 弘祐
中小企業診断士・技術士
(情報工学)
同合同研究会 事務局長/
ティフ研 幹事



有島 佑樹雄
中小企業診断士
企業内診断士研究会ティフ研
幹事



新入会員



- ①氏名：石井 邦久（いしい くにしさ）
- ②住所：小山市
- ③登録年：2025年
- ④経歴・活動等：
 - ・1991年より富士通勤務、企業内診断士
 - ・人事労務経験29年、自治体コンサル経験5年
 - ・ITコーディネーター
 - ・経営学修士（MBA）

メッセージ：

- 「ヒト」のもつ可能性に働きかける仕事にやりがいを感じ、30年近く富士通の人事部門で様々な業務に従事してきました。スキルアップのため、一時期、自治体向けの業務改善コンサルを経験した際、診断士の仕事に魅力を感じ、企業内診断士として副業をしながら、将来独立したいと考えるようになりました。
- 私の強みは、採用、人材アセスメントによる人材育成など、人事労務全般にわたる豊富な知見の他、生産現場やサービス現場における業務改善を支援した経験です。
- 京都府出身、転勤で昨年より小山市在住。
- 趣味は、城めぐり（目標500城）、クラシック音楽鑑賞、写真撮影。



- ①氏名：荻原 秀之（おぎわら ひでゆき）
- ②住所：宇都宮市
- ③登録年：1991年
- ④経歴・活動等：
 - ・1983年 足利銀行に入行
 - ・2004年 栃木県信用保証協会に入協
 - ・2025年 那須信用組合に入組
 - ・企業内診断士

メッセージ：

- 足利銀行に在職21年間、栃木県信用保証協会に在職21年間の計42年間、一貫して中小企業の皆様の資金繰り支援、経営改善支援に努めてまいりました。
- 今年度4月からは、縁あって那須信用組合に入組し、引き続き、中小企業の皆様の経営サポートに努めております。
- 特に栃木県信用保証協会に在職中は、栃木県中小企業診断士協会をはじめ、傘下の先生方には大変お世話になり、改めて感謝申し上げます。
- 企業内診断士の立場ですが、今後とも中小企業の皆様に対して適時適切なお支援に努めて参りたいと思います。どうぞ、よろしくお願いいたします。

新 入 会 員



- ①氏名：金田 修治（かねだ のぶひろ）
- ②住所：宇都宮市
- ③登録年：2025年
- ④経歴・活動等：
 - ・2011年行政書士事務所を開業
 - ・栃木県行政書士会理事
 - ・NPO法人成年後見支援センターフォレスト 理事長

メッセージ：

- 29歳で行政書士事務所を開業してから、建設業許可、産業廃棄物収集運搬業許可、入札参加資格等、許認可申請業務及び記帳・会計業務を中心に活動してきました。
- 現在の主力業務は、障害福祉サービス事業所（就労継続支援A型・B型事業所等）の指定申請及びその顧問業務になります。
- 行政書士として企業と関わるうちに、許認可だけでなく総合的な経営の助言が出来るようになりたく、中小企業診断士を志しました。
- まだまだ右も左も分からない新参者ですが、ご指導、ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願いいたします。



- ①氏名：小花 勇人（こはな はやと）
- ②住所：宇都宮市
- ③登録年：2019年
- ④経歴・活動等：
 - ・足利銀行に37年間勤務し2024年6月退職
 - ・主に法人渉外として中小企業のソリューション営業に邁進し2019年以降企業内診断士を兼務
 - ・退職後民間で専任宅建士として宅建実務を習得
 - ・2025年5月独立開業、同時に厚労省「働き方・休み方改善コンサルタント」として就任

メッセージ：

- 昨今の銀行の法人営業は中小企業診断士しながら経営課題解決をメイン業務としています。一方、銀行員と診断士としての立場で葛藤する場面もありました。
- 今後は独立診断士として中小企業に寄り添った支援活動に邁進します。
- 複業として宅建業を兼業しております。不動産売買・賃貸のご相談も気軽にお声かけ願います。
- 趣味:スポーツ観戦が好きです（特にサッカー・野球・ラグビー）銀行退職後は国内旅行の機会も多くなり、福岡ペイペイドームや札幌エスコンフィールドでの生観戦には興奮しました。自己啓発を兼ねて、診断士の周辺知識習得や各種資格試験にも意欲的に取り組んでおります。

新入会員



- ①氏名：古牧 道之（こまき みちゆき）
- ②住所：那須塩原市
- ③登録年：2025年
- ④経歴・活動等：
 - ・医療用医薬品メーカーにて営業・エリアマーケティングを担当
 - ・事業計画策定、経営改善、販路開拓、マーケティング、6次産業化（農業）

メッセージ：

- これからの人生、地元に貢献したい、少しでも人の役に立てる存在でありたいと考え栃木県に戻ってまいりました。『地域企業と共に、未来を創る』を私の存在意義として、地域の中小企業と共に成長し、持続可能な地域の未来を築くため、課題解決から価値創造まで一貫して伴走支援を行っていきたいと考えています。
- まだまだ駆け出しではございますが、皆様のお力添えを頂戴できますと有り難く存じます。今後ともよろしくお願い申し上げます。
- 趣味：子供のサッカー（日本サッカー協会公認D級コーチ・4級審判員）
スポーツ観戦、ゴルフ、映画鑑賞等



- ①氏名：齊藤 啓一（さいとう けいいち）
- ②住所：那須塩原市
- ③登録年：2020年
- ④経歴・活動等：
 - ・精密機器製造業者の子会社に勤務経験有
 - ・事業部長、技術管理、経営企画
 - ・東京都中小企業診断士協会中央支部にも所属
 - ・技術士（原子力・放射線）（放射線の専門家です）、博士（工学）、日商簿記検定二級

メッセージ：

- これまでの診断士活動
コンサルティング：経営革新計画、事業再生、事業承継、新規事業開拓などの分野において、製造業、卸売業、サービス業を中心に補助金支援や研修講師として参画
執筆：帝国データバンク業界動向（精密機械）、JRS経営情報サービス（6業種）、月間税理士（予定）、フレッシュ中小企業診断士による合格・資格活用の秘訣（共著）
- 抱負
“売上を上げる”、“コストを下げる”といった短期的な成果に留まらず、ご依頼者とパートナーシップを築き、ともに成長していくシナリオを策定することを信条としています。まだまだ研鑽が必要な身ですが謙虚な姿勢をもち、全力で対応してまいります。

新入会員



- ①氏名：清水 英昭（しみず ひであき）
- ②住所：宇都宮市
- ③登録年：2024年
- ④経歴・活動等：
 - ・大学卒業後、製薬会社勤務で福岡県、愛知県を経て栃木へと異動してきました。昨年、中小企業診断士の登録を行い、現在、企業内診断士としての活動を模索しています。

メッセージ：

- 蛭で有名な長野県辰野町出身です（例年6月にお祭りがあります）。
中小企業診断士は実家が商売をしていたこともあり、興味本位で自己研鑽の為に勉強を始めましたが、今では人生に大きな影響を与えるような存在となっています。
50歳も間近に迫り、本業では病気で苦しむ患者さんの為にと尽力し、「ベテラン」と呼ばれることに違和感がなくなる中、診断士としてはまだまだ「ド新人」であり、色々なことが新鮮で刺激的です。企業内診断士として、限られた時間での活動になってしまいましたが、熱意を持って中小企業の活性化を通じた社会貢献をしていきたいと考えています。



- ①氏名：下村 博史（しもむら ひろし）
- ②住所：東京都（義理の両親が宇都宮市戸祭在住）
- ③登録年：2022年
- ④経歴・活動等：
 - ・三井住友銀行、日本総合研究所、コカ・コーラボトラーズジャパンに勤務した後に独立しました。
 - ・中小企業診断士は栃木県のほか、東京都と長崎県にも登録しています。
 - ・行政書士、エネルギー管理士とのマルチ士業です。

メッセージ：

- 栃木県で「省エネ」や「事業承継」、「補助金申請」の分野に携わることが目標です。
宇都宮は義理の両親が住む、私にとっての第2の故郷だからです。両親と家内の地元企業や地域に貢献できることが、何よりの喜びです。人とのご縁を大切に、エネルギーのムダを減らし、大切な想いを次世代へつなぐ支援をしていきたいです！
トピックスは、今年4月に書籍「事業を未来につなぐ中小M&Aガイド」（共著）を出版したことです。そして趣味は、ベートーベンの第九合唱です。今年は12月7日に東京池袋の東京芸術劇場で、日本フィルハーモニー管弦楽団とコンサートを行います。
これからどうぞよろしくお願いいたします！

新入会員



- ①氏名：富田 百花（とみた ももか）
- ②住所：宇都宮市
- ③登録年：2024年
- ④経歴・活動等：
 - ・製造業損益管理職、経営コンサルタント職を経験
 - ・経営改善、生産管理、採用活動支援、DX推進、人材マネジメントなどを中心に活動
 - ・製造業を中心とした支援実績

メッセージ：

- 経営者や従業員に寄り添った伴走型支援をモットーに、「企業の未来をともに描く経営のパートナー」を目指しています。
- 現場に足を運び、実務をよく把握した上で最適な改善策を経営者と一緒に考える姿勢を大切にしています。
- まだ経験の浅い点もありますが、専門分野を絞りすぎず、経営改善を中心として幅広い業種・分野を経験し少しでも中小企業の役に立てるようになりたいと考えております。
- 趣味:散歩、ヨガ、読書など。



- ①氏名：服部 実成（はっとり よしなり）
- ②住所：那須塩原市
- ③登録年：2024年
- ④経歴・活動等：
 - ・化学メーカー勤務
 - ・2024年～ 東京協会城南支部所属
 - ・城南コンサル塾20期修了

メッセージ：

- 転勤を機に那須塩原市に住むようになり15年になります。
- 化学メーカーにて、BtoBの素材営業を経て、生産管理に携わっています。
- 新事業への資本参加に際し、KPI、原価管理スキーム構築などPMIに携わりました。管理会計（予算・中計、原価・採算管理）に加え、SCM、工場の業務改善、協力会社の管理など生産管理全般に取り組んできました。
- 自身の経験を活かし、栃木県の中小企業の発展に貢献できるように、実践に取り組んでいきたいと思っています。
- 趣味：コンサート鑑賞（都響会員）、ジョギング

新入会員



- ①氏名：野崎 光生（のざき みつお）
- ②住所：小山市
- ③登録年：2010年
- ④経歴・活動等：
 - ・栃木県と長野県の地方銀行、栃木県の信用金庫に勤務
 - ・銀行では営業店のほか本部（調査・融資部門）、シンクタンクを、信用金庫では経営企画部門等をそれぞれ経験
 - ・事業会社（中小企業）にて管理部門を経験

メッセージ：

- 銀行では営業や融資を、シンクタンクでは経済・産業調査をはじめ自治体等からの受託調査をそれぞれ担当しました。診断士の体系的な知識を有効に活用できました。
- また、銀行が見る中小企業、信用金庫が見る中小企業、そして中小企業が見る金融機関は、立場が異なれば全く違って見えることも体感し、それぞれの立場を踏まえて考え行動する利他の精神が重要だと痛感しました。
- こうした経験をもとに、これからは中小企業のあるべき姿を目指しながら伴走する診断士として活動していきたいと考えております。よろしくお願い申し上げます。
- 趣味を活かし、若手美術作家の活動に企業の経営戦略等の手法を用いて伴走したいとも考えております。

インフォメーション

●研究会活動予定

年	月	研究会活動			
		DX研究会	企業内診断士研究会	執筆研究会	経営の仕組み改革ミニ研究会
2025年 (令和7年)	4月	●4/12(土)R7-1回目DX研究会 ・デジタル化支援・AI・ラズベリーパイ・加速 度センサー・ロボットの5つ勉強会開始 ・各種アプリ等を利用。中小企業のDX解決 策	●4/19(土) オンラインサロン(第52回)		
	5月		●5/17(土) 北関東信越ブロック中小企業 診断士プレッシャーズフォーラム2025		
	6月	●6/27(金)R7-2回目DX研究会 ・ラズベリーパイで「監視カメラ」作成 ・ロボットでのチュートリアル説明	●6/7(土) 定例研究会(令和7年度第1回) ●6/21(土) オンラインサロン(第53回)		●6/9(月) 経営の仕組み改革ミニ研究会 参加者募集案内発信
	7月	○7/18(金)R7-3回目DX研究会 ・AI勉強会:テーマを決め事前案内、参加者 間で自由討議 ・デジタル化支援:中小企業で使える仕様 で作成されるための討議	○7/19(土) オンラインサロン(第54回)	○7/16(水) モデル利益計画のシナリオ 構成について	○7/10(木) 経営の仕組み改革ミニ研究会 (1回目) 研究会主旨・進め方提案・協議 「人づくり」とは(実体験から)
	8月	○8/22(金)R7-4回目DX研究会 ・加速度センサー:データ収集結果、データ 整理進め方等 <5勉強会の状況説明等>	○8/16(土) オンラインサロン(フリートーク特 別回)	○8/20(水)モデル利益計画のブラッシュ アップ/添削向上会議	
	9月	○9/19(金)R7-5回目DX研究会 ・ロボット勉強会の進捗状況説明 ・デジタル化支援の進捗状況説明	○9/6(土) 定例研究会(令和7年度第2回) ○9/20(土) オンラインサロン(第55回)	○9/17(水)モデル利益計画のブラッシュ アップ/添削向上会議	○9/11(木) 経営の仕組み改革ミニ研究会 (2回目) コマツTQM、カミンズのグローバル ビジネス、ISOの意図(経営品質)の 理解
	10月	10月以降は会議室予約の関係で日程未 定。 (○10/24(金)R7-6回目) <5つの各勉強会進捗、職場導入テスト結果 >	○10/4(土)・5(日) 新潟県×栃木県企業内 診断士合同研修会 ○10/18(土) オンラインサロン(第56回)	○10/15(水)モデル利益計画のブラッシュ アップ/添削向上会議	
	11月	(○11/21(金)R7-7回目) ・ラズベリーパイで「キャタピラ式模型」作成 ・実機ロボットでの操作テスト結果	○11/15(土) オンラインサロン特別公開休 眠会(第57回)		○11/13(木) 経営の仕組み改革ミニ研究会 (3回目) 成功事例から手法・ノウハウを開発
	12月	(○12/19(金)R7-8回目) ・AI勉強会:決めたテーマでの参加者発表 及び自由討議 ・デジタル化支援:中小企業で使える資料総 括	○12/上旬 定例研究会(令和7年度第3回) ○12/20(土) オンラインサロン(第58回)	○12/17(水)次年度 モデル利益計画の 担当割り振り	
2026年 (令和8年)	1月	(○1/23(金)R7-9回目) ・加速度センサー:データ収集結果より、現 場で使用確認テスト <5勉強会の状況説明等>	○1/17(土) オンラインサロン(第59回)		○1/15(木) 経営の仕組み改革ミニ研究会 (4回目) 成功事例から手法・ノウハウを開発
	2月	(○2/20(金)R7-10回目) ・ラズベリーパイで「キャタピラ運転テスト」 ・実機ロボットでの改善点等のまとめ	○2/21(土) オンラインサロン特別記念講演 (第60回)		
	3月	(○3/27(金)R7-11回目) ・AI勉強会:1年間の決めたテーマでのまと め ・デジタル化支援:中小企業で使える資料総 括	○3/上旬 定例研究会(令和7年度第4回) ○3/21(土) オンラインサロン(第61回)		○3/12(木) 経営の仕組み改革ミニ研究会 (5回目) 活動のまとめ(中小企業への提言)

注:●実績、○計画及び予定

表紙写真

表紙:松樹翠(みどり)の夏 (足利市:足利学校)

茶席の掛軸に「松樹(寿)千年翠」を見る。松の緑は、真夏の強い陽射しをうけて最も輝く。

撮影 舟橋 哲次

裏表紙:最後の出番、がんばれー! (那珂烏山市:烏山市街)

山あげ祭りでは昼夜にわたり野外歌舞伎が披露される。460余年の伝統舞踊は一見に値する。

撮影 舟橋 哲次

インフォメーション

●行事予定

月	研修会	診断実務従事事業等	主催セミナー／行事等	企業診断とちぎ等	本部・ブロック関係
4月					
5月	●5/23(金) 研修会 ホテルニューイタヤ		●5/23(金) 第13回通常総会		
6月					
7月					■7/25(金) 北関東・信越ブロック 情報交換会(新潟県)
8月				●「企業診断とちぎ」 第101号	
9月	○9/20(土) 理論政策更新研修 ホテルマイステイズ 宇都宮				■9/26(金) 北関東・信越ブロック 会議(群馬県)
10月					
11月					
12月				○「企業診断とちぎ」 第102号	
1月	○1/17(土) 新年研修(詳細未定)				
2月					
3月				○「企業診断とちぎ」 第103号	

注: ●確定、○予定(詳細未定)、■□本部行事等

●会員情報

【会員数】(令和7年6月30日現在)

正会員 121人
準会員 4人

●編集後記●

「企業診断とちぎ」も100号の節目を乗り越え、この号からまた新たな歴史が始まりました。ご多忙の中、執筆にご協力いただいた皆様本当にありがとうございました。

さて、2025年度が始まり県内中小企業においては倒産、廃業など増加傾向という厳しい状況にあります。国内では参議院議員選挙が政権選択選挙になるだろうという報道も聞こえてきます。発行される頃には結果が決まっているでしょうが、海外に目を向けると関税問題や紛争の発生等、もはや戦後ではなく戦前の様相だというような論評も行われています。内も外も先が見えないカオスの時代になっていると感じています。その中であって先が見えない中小企業に元気になってもらえる支援を行えるかが、今こそまさに中小企業診断士に問われているのだとも感じます。広報誌がそれら中小企業診断士にとって、そして支援している企業にとっても一助になれば幸いです。

（佐藤 秀紀）



最後の出番、がんばれー！ （那珂烏山市：烏山市街）：撮影 舟橋 哲次

企業診断とちぎ8月号(第101号) 令和7年8月

発行 一般社団法人 栃木県中小企業診断士協会
〒321-0152 栃木県宇都宮市西川田7-1-2
TEL:028-612-8880 FAX:028-612-8834
URL:<http://www.rmc-tochigi.or.jp/>

発行人 須田 秀規
編集 広報委員会
印刷会社 株式会社松井ピ・テ・オ・印刷

